

品川区いじめ根絶協議会（第2回）議事録

実施日時：平成27年11月27日午後3時から午後5時

会 場：品川区立小中一貫校伊藤学園

1 品川区立教育総合支援センター長挨拶

2 報 告①

<品川学校支援チームHEARTSチーフスクールソーシャルワーカーより、品川区いじめ対応について報告>

3 施設（授業）見学

<伊藤学園校長の説明により、小中一貫校伊藤学園施設の見学>

4 報 告②

<伊藤学園副校長より、学校におけるいじめ防止に向けた取組について説明>

報 告③

<児童・生徒によるいじめ防止に向けた取組として、いじめをなくすために活動する伊藤学園児童・生徒のチーム「スクールバディ」の取組を報告。5年生から9年生・11名のスクールバディメンバーがチームのメンバー自らが作成した校内ポスター紹介や模擬面接など、デモンストレーションを交えて活動報告を行った。>

5 協 議

テーマ「子ども同士でいじめを防止していくために」

<グループ協議、協議内容の報告>（要旨）

【第1グループ・A委員】

スクールバディの取組はとても良いという意見であった。今までは様々な形で大人が関与したり、児童会や生徒会組織を大人がバックアップするような活動が多く、いじめを察知するのが難しい。教師や保護者など大人が知らないうちに子どもたちの間でいじめが進行していることがある。スクールバディのように子どもたち自身で活動を行うことは、ある程度いじめを察知できる取組であるだろう。一方、いじめを察知したときの大人の関わりなど、どのような対応をしていくのかが課題である。スクールソーシャルワーカーなどの専門家組織が学校に対して必要になってくるのではないかという意見が出た。スクールバディのようないじめ防止の取組は、子どもたち同士のネットワークで活動を広げていくことでより効果が期待できる。ただし、いじめを

最終的に解決する、あるいはなくすなど、その先が難しいところである。

【第2グループ・B委員】

スクールバディの役割とその後の解決に向けた取組について話し合った。子ども同士ではいじめに対応することや解決まで導くには難しい面がある。あくまでもいじめ防止ということの取組であるのだろう。子ども同士で話しやすい学級や学年の雰囲気づくりや、大人にも報告しやすい環境づくりが大切であるという意見が出た。

【第3グループ・C委員】

子どもたちが自主的にいじめ防止の取組を行うスクールバディの活動は、これからも継続していけると良い。子ども同士で見守る活動であったり、率先して声かけを行うことなど、クラスや学校内で孤立させない状況をつくることもできるのではないかと。一方、子どもたち同士でいじめを解決するということを期待するのは負担が大きいと思われる。大人に話せないことも友達同士では話せることもあり、伊藤学園のバディルームも、入りやすく、話しやすい環境づくりが大切ではないかという意見が出た。

【第4グループ・D委員】

子どもたちの自主的な活動を支えていくためには、先生方が一方的に伝えるのではなく、子どもたち自身がクラスや学校のなかで話し合う経験を積み重ねることや、スクールバディの活動や学級などから子どもたちの話や意見を先生が受け取り、相談に応じるなど、子どもたちの自主性を育てる基盤づくりが大切なのではないかという意見が出た。バディルームでは、気軽に入って話せることと、なかなか人に話せないことを話してみようということが両立できる環境面の配慮が必要なのではないか。また、スクールバディの活動経験がある卒業生など、先輩も一緒に活動をサポートできる体制をつくっていけると良いのではないかと。

【委員長】

各グループより発表をしていただいた。いじめへの対応は、「いじめ発見」「いじめ解決」「いじめ防止」の3つに大きく分けられる。子ども同士で行う取組が一番良いのが「いじめ防止」ではないか。また、「いじめ発見」も、大人や教師が察知できない面を、子ども目線でキャッチできることがある。一方で「いじめ解決」は、子ども自身に任せるのではなく、教師や学校・スクールソーシャルワーカーなど専門家へのパイプをつなぐなど、適切な対応が必要である。学校のなかでも名前と顔が一致することが増えていくことで、より一層子ども同士のパワーが発揮できるのではないかと。子ども同士でいじめを防止していくために、異学年の有志による伊藤学園スクールバディの取組報告を受け、改めて感じたところである。

6 事務連絡

<事務局より今後のスケジュールについて、次回は平成28年2月26日に開催を予定>

7 閉会